

神仏プロジェクトや日本刀

諏訪の文化研究発表

財 文 化 財
支 部 協 保 護 協

県文化財保護協会諏訪支部(伊藤文夫支部長)は26日、研究発表会を諏訪市諏訪1の諏訪教育会館で開いた。仏法紹隆寺の岩崎有全住職(45)が「諏訪の神仏信仰をもう一度」諏訪神仏プロジェクトがで

人が参加し、神仏信仰や日本刀などへの理解を深めた。諏訪地域の文化をテーマとした研究発表の場で、年3回開催している。岩崎住職は同寺に伝わる「両部神道言上草案(市文化財)などの古文書をひもとき、「諏訪社の神道は真言宗と習合した両部神道であったとされる」と解説。神仏習合、分離にも触れ、地域に浸透していた信仰や寺社



諏訪の神仏信仰について講演する仏法紹隆寺の岩崎住職

の在り方を明らかにした。その上で、諏訪の上下社に由来する仏像を一斉公開した「諏訪神仏プロジェクト」実現までの道のりを

説明。「活動を通して、お寺をより身近に感じてもらえれば」と話した。岩村さんは冒頭「アニメや漫画の世界で刀が大活躍している。特に女性からの人気が大い」と昨今の

日本刀ブームを紹介。日本には▽付け焼き刃▽しのぎを削る▽つばぜり合い「など刀に関係する言葉が多く存在することから「当時は身近な存在だったのでは」と推測した。発表では時代ごとの形状の特徴や、諏訪地域で活躍した刀工を解説。実物も披露し、参

加者たちは鍛えられた刀身の美しさに息をのんだ。

参加した北澤等さん(66)は「諏訪市四賀」は「神仏プロジェクトの裏側を知ることができたほか、日本刀の美術品としての側面が理解できる良い機会だった」と話していた。(平岡大輝)